

社会のためのアーカイブ

根付かせるには何が必要か？



まず、アーカイブの深さを知ること

- ただキープすればいい訳ではない。
- どんな意味があって存在するのか、残すことでどんなふうに関立つ可能性があるか
- そのポテンシャルを見ぬく想像力が必要
- 文化に造詣が深い、とは文化のポテンシャルが見える人のこと。
- ある時代には存在意味がなくても、将来には意味のあるものになる可能性も。

アーカイブ教育が非常に大切

- 誰かが大切にキープしても、次の人が台無しにすることのないように
- アーカイブすることの意義を社会常識として訓育する必要性（醸成では不足？）
- 社会は多くのものをもう既に持っている
- 持っているものを活かすことが一番無駄を省く
- 消費していくばかりの社会をそろそろ顧みて、過去を使うことを考えるべき

社会は多くのものをもう既に持っている

- 過去の豊かな財産を知らずにいることは不幸
- 掘り起こして過去の価値ある資産を活用する
- それはエコにも、出費を抑えることにも繋がる
- 新しいものはもちろん生み出されるべきだが、過去のものを眠らせる手はない
- 過去の財産の利活用にまだ誰も手をつけてない
- うまく過去と現在を同時に扱い、将来へ繋げるべき

マンガの世界もそれは同じ

- マンガミュージアムに行けば、過去に忘れ去っていた名作を見つけ出すことができる
- 名作はそれを見つけた人の人生を振り返らせる
- それは社会の変遷をも見渡す行為に繋がる
- なぜ忘れられているだけなのか？もう一度生き返ることはないのか？
- 若い人にとって過去のマンガは無意味か？
- 外国の読者にとっては過去も未来も変わりが無い

困っているマンガ原画のアーカイブ

- 漫画家が亡くなって著作権は子孫に受け継がれるが、原画は？どうしたらいいかわからない...
- 業界に詳しくなければ管理が不可能
- 相続人がいない場合もある
- 散逸する原画... もしくは売られてしまう原画...
(江戸末期の浮世絵のように)
- 電子ブックになっていれば原画に用はない？
- 原画に残る様々な情報は電子ブックではわからない

マンガ原画アーカイブに必要なもの

- まず必要な湿度が保たれる空間（カビない）
- 漫画家一人に4畳くらい（多作な場合もっと大きくなる）
- その1枚1枚を数だけでなく順や変則的な部分も含めて把握する→誰が？
- 外部から依頼があれば貸し出し、元通り戻るまで管理する
- 作品の内容に言及できるキュレーター能力を持つ人材が不可欠

充分大きな施設があってしかるべき

- 当然そこにはキュレーターやその見習い、事務職が存在すべき
- 新しい職場の創設にもなるはず
- そんな施設の運転資金を賄うために著作権の一部が供されてもよいのでは？
- 過去の作品を再出版したり、グッズをすることで収入も得られる
- 役所的な考えではなく、アーカイブの生き残りを考える

使えるものとしてアーカイブする

- 社会に根付かせる、というより、使えるアーカイブなら当然社会に根付くはず
- 使う工夫と使えるシステムを構築する
- アーカイブの常識はまだこれから構築が可能
- 後世のためになるような常識を作っていく
- それにはそれぞれの分野で専門家がまず熱心に検討する必要がある
- 次に出来るだけ早く実施を始め、経験値を積み重ねる必要

危険なのはキープするにとどまること

- どんなことも動いていかなければ意味がない
- 利活用されてこそそのアーカイブと心得、積極的に活用する
- アーカイブは社会のためなのだということ
- せっかく持っている財産を埋もれさせないことが重要
- 財産はキープも大事だが、使わなければ無意味

ご清聴ありがとうございました！